



KAGAYAKU

かがやく

題字：木版
西野一男さん

44

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
感動人生！ここに生きる元気な人間人びと



▲リズムで「会話」



▶ベル付ドゥンドゥンは楽しい音



▲息の合ったセッション



▲指さばきも見事！



▲ジャンベで手のひらも心も弾ませて



▲神谷さんを中心に「打ち音」の皆さん

誰かが♪タン♪タン♪タンと新しいリズムを刻みます。すると神谷さんバチで打つドゥンドゥンの前に立ち、♪ドコンドン♪ドコンドン♪カンと賑やかにリード。その顔から白い歯がこぼれます。いつの間にかドラムセットが運ば

窓口係の神谷さん、練習の一日は楽器の運び込みから始まります。ジャンベ、ドゥンドゥン、シエケレ：珍しい楽器をどんどん並べると、一人でジャンベを叩き始めます。叩く場所や手の形で幾つもの音色が出せるのを、味わうように♪タン♪タンとリズムを刻みます。徐々に増える仲間もジャンベを叩きだすと即興の音楽があふれ出し、神谷さんはニコニコ叩き続けます。

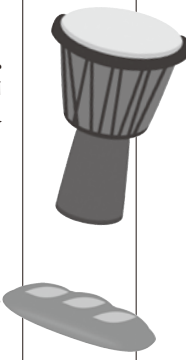
「一日17時間働く、8時間労働+残業9時間」と笑顔で話す神谷芳雄さん、実は音楽を愛する手作りパン屋さんなのです。そんな神谷さんが20年間楽しんでるのは、西アフリカの太鼓「ジャンベ」です。第一回いるま太鼓セッションをきっかけに、2006年にサークル『打ち音(だきね)』を結成、現在『打ち音窓口係』の名刺を持って活動中です。

■神谷芳雄さん(久保稲荷)
ジャンベもパンも

聞けば、奥様の声楽とギターで共演する夢もあるとか。『かがやく人』に出会えました。

練習後「窓口係ってリーダーのこと？」と聞くと「うちは商売やつてるから窓口係！」と笑う神谷さん。「人生、楽しいことしかやりたくない」高校生で心に決めた思いを、62歳の今も持ち続けているそうです。「楽しいこと」と言うと、簡単とか気楽とか思われるかもしれないから、あんまり言いたくないんですよ。もちろん大変なことたくさんあります。でもパン屋の仕事も音楽も楽しいからやってるんですね、たぶん。」照れくさそうに、話す神谷さんでした。

ドラムやベースのリズムがジャンベやドゥンドゥンのリズムと重なり、力強い音楽が会場いっぱいに轟きます。神谷さんは白い歯を見せ、笑顔、また笑顔です。太鼓セッションや万燈まつりなど、年に7回ほど本番をこなす『打ち音』。3時間の練習の間、休憩も取らず集中します。





■繁田 幸さん(高倉)

ボランティア活動は自分の為に

ボランティアを始めてみよう！と思ってもなかなか行動に移せないのもです。そんなボランティア活動を自ら積極的にやっている、生まれも育ちも地元人間の繁田幸さん(83歳)をご紹介します。

昭和57年、市内で9つのボランティア団体が発足しました。繁田さんは、その中の団体に所属し、活動を始めました。現在でも数多くの活動に参加していて、今年でボランティア歴36年になります。現在でも使用済み切手の収集を10年、子育て支援団体のおもちや消毒を10年、高倉小学校の登校時の見守りを10年と全て現役で活躍されています。

過去には、高齢者の方々に絵手紙を送る『友愛会』、お弁当作りや高齢者の話し相手などを行う『たすけあい語来里』などに所属し、活躍していました。



▲ボランティア活動は積極的に行います



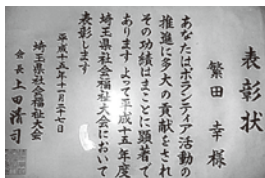
▲看護師のお仕事中です

「ボランティア活動は誰かの為に行うことだと思われがちですが、私は自分の為にやっているんです。」と語ってくれました。

面倒見が良く、人と話すことが大好きな繁田さん。現在は、ご自身の体調を考慮し、活動を減らしているそうですが、今出来ることは何かを常に考え、可能な限り積極的に活動されています。

また、長年の功績が評価され、平成15年度には、埼玉県福祉の向上に功績のあった団体や個人の方々に表彰する埼玉県社会福祉大会において表彰されました。

繁田さんはボランティア活動だけでなく、何でも楽しみながら活動し、人生を謳歌されています。高齢社会の中で自身も高齢



▲埼玉県社会福祉大会表彰状

「たんぼぼ」の皆さんは、市の体育協会の講習を受けたのがきっかけで、それから現在まで25年間、ずっと活動を続けています。

インディアカ？名前は聞いたことあるけど、どんなスポーツかは知らない。そんな人が多いのではないのでしょうか。

インディアカは、バレーボールとよく似たスポーツです。赤い羽の付いたボールを、ネットをはさんで片手で打ち合い得点を競います。4人制で行います。

「たんぼぼ」の皆さんは、市の体育協会の講習を受けたのがきっかけで、それから現在まで25年間、ずっと活動を続けています。

結成当初は『ひばり』の名で活動していましたが、仕事や介護など多忙を理由に人が減り、連盟を抜け、『たんぼぼ』と改名。遠征試合もほとんどなくなり、のんびりと活動するようになりました。毎週水曜夜7時半から、東金子体育館で和気あいあいと練習をしています。現在の会員は、女性10人。そのうち半数は結成当初からのメンバー。

長続きの秘訣を伺うと、「とにかく楽しいですから。」「みんないい人



▲インディアカボール

ばかりです。」「よく動き、よくしゃべり、よく笑ううちに、ストレスが全部吹っ飛んでいきます。」「肩凝りもなくなりました。」

40代から70代まで、年齢も環境も様々ですが、皆さん若々しく、仲が良く、とても楽しそうです。時には飲み会やバス旅行にも出かけます。「飲み会は、年に3回くらい。すぐに話がまとまるんです。」「旅行は、たまに話を持ち上がった時。」

インディアカは、羽の付いたボールを打ち合うので、ボールのスピードが速すぎず、年齢や性別に関係なく楽しめるスポーツ。女性のお仲間大歓迎です。年齢不問。年齢は越えていきま

しょう！
「動ける限り、インディアカは続けます！とおっしゃるの代表の栗原政子さん。インディアカの魅力が伝わってきます。



▲「たんぼぼ」の皆さん



▲ネットをはさんで対戦



「和裁とリホーム」(東金子公民館)
和から和へよみがえる着物

田中みどりさん(田中みどり着物学院院長)は、和裁歴37年を越えるベテラン講師です。

『もつたいたい！、もつたいたい！』の発想から和裁のリフォームを思いつき、平成元年頃、ペアーレで教室を開いていましたが、都合により、東金子公民館に移ったのは、8年ぐらい前になるそうです。

着物は通常反物から仕立てますが、和裁のリフォームは、出来上がっている物をこわし、複数の着物から使える部分を切り取り、洗い張りをし、縫い合わせて、仕立てます。

田中先生の手にかかる、古い着物が見事に生まれ変わります。和から和へのリフォームが先生のこだわりです。



▲一つ一つ丁寧に仕上げます



▲生徒さんの作品



▲今日の着物も作品です

生徒さんたちが、一つ一つに時間をかけて仕上げていく中で、先生は、厳しくも、丁寧でわかりやすく、細かいところまで目を配られ教えていきます。一つの物を完成させるまで、半年ぐらいかかるそうです。

生徒さんの作品の一部をご紹介します。帯留め・襦袢・長襦袢・温袍・七五三のお祝着・産着・巾着等、どれも素晴らしい作品ばかりです。

このお祝着を作った生徒さんは、「孫がとても喜んで着てくれたので、ここで習っていて良かったと思っています。」と笑みを浮かべていました。教室は、毎週月曜日の午後で二部制(二部時間が重なる)になっていて、先生と生徒さんたちが、打ち解けあっている光景は、とても印象深いものがありました。これからも、多彩な作品が生み出されていくことを期待しています。



「PC入問」山岡靖義さん(中央公民館)
情報収集に手放せない

パソコンほど便利で知的な道具は他に見当たりません。文芸や日常の記録管理、その他高度な科学分野に至るまで、ネットワークを通して情報収集にかかせない道具です。不本意なタッチさばきをして案外大丈夫なものです。

平成22年の桜が咲くころ、市内在住のIT講師の有志が

主な活動場所を中央公民館として、『PC入問』を結成しました。会の責任者は山岡靖義さん、他に講師7人。

パソコンはとても便利な道具ですが、混乱しやすい用語が多くあります。「概念を正確に把



▲講習風景

握出来ないままで、業者の言いなりになると、高額な費用を請求されたり、面倒な手続きをさせられる事もありますから、知ったかぶりや、すべてお任せするのは危ないですよ。」とは山岡先生のアドバースです。

『PC入問』の講師陣はこのようなパソコンを取り巻く社会情勢の中で、かつて第一線で活躍され、その技能を遺憾なく発揮された人たちが集まっています。彼らはパソコン利用を面白く、そして有意義なツールに仕立ててくれるエキスパートです。これまで築いてきた経験や技能を活かし、パソコン技能を必要としている人たちに指導を行い、『生きがいのある人生』を目指しながら楽しんでいきます。

難しい会の規則はなく、入会と退会は自由です。毎月2回木曜日の午後、そのつど受講費五百円(入会金なし)を支払って、資料を受け取ります。講習内容は受講者の希望を取り入れた長期の講習計画に基づいて、主にワード、エクセル、インターネット、メールなどで構成されています。様々なパソコントラブルなども個別相談可能。通常はノートパソコンの持参が必要ですが、でも大丈夫、貸し出し品もあります。

■ビーズサークル（二本木公民館）
楽しいのが一番！

明るい日だまりの工作室。楽しげな笑い声が聞こえます。皆さんの写真撮らせて欲しい、とお願いと、「あら、訪問着を着てこなかった！」「とか「写真は美容室行ってからじゃないとダメよ！」と冗談が飛び交います。とても明るいサークルです。

講師の石井節子先生がビーズ講師の免状を取ったことをきっかけに、生徒さんたちが10人の仲間を集めてサークル登録したのが始まりです。もう15年経ちますが、現在も8人の生徒さんが活動を続けています。

「楽しいことをやるのが一番よね。目が疲れても、肩が凝っても作品を作ることには没頭してしまつて、不調を忘れてしまうの。みんなビーズが本当に好きなのよね。」と石井先生。

皆さんの作品について、「どの位で仕上げられるのですか？」と聞くと、「作品は、だいたい1カ月で仕上げます。教室で



▲皆さん、美しいですよ！



▲先月の課題のネックレス



▲石井先生とビーズスプーン

終わらなかつたら、翌月までの宿題だから作品が年間12個は出来上がるわけね。」と生徒の竹島さん。今月の課題のラリアットネックレスも簡単な作品ではありません。

家に帰れば、お孫さんの面倒やら家事やらと忙しい皆さんですが、このサークルに参加している時は、「家の事は忘れるの。」と本当に楽しそう。和気あいあいとおしゃべりにも花が咲きます。制作に没頭している生徒さんが「先生！ちょっと来てくださーい。」と声をかけると、その度に先生は材料やらレシピやらワイヤーやらを持って生徒さんのところに走ります。「先生と呼ばれていても、今も講習会に参加して勉強しています。習ったことはすぐ教えちゃう。出し惜しみが出来ないのよ。」

先生は、ビーズの個数を測るスプーンの開発者。「国内、色々な所に売った



わ。「こんなものがあつたらいいな」とか「困ったな」という時が開発のチャンスよね。」と発明家の顔もチラリ。

他にも小さなビーズを扱うため、色々なアイデアを駆使した道具があります。中でも皆さんが使うビーズ用コンパクトは、中に毛布のような生地が敷いてあつてビーズの転がりを防ぎます。「茶の間でやつている時、パチッと閉じれば家族が来てもすぐ片付けられるし、便利です。」と、とても好評です。

それにしても小さなビーズを細い針で一つ一つすくっていく細かな作業に見ている方も息を詰めてしまいます。

皆さんのすてきな作品は、二本木公民館のホールに飾られています。ぜひのぞいてみてください。



▲ホールに飾られたみごとな作品

◎生涯学習情報紙「かがやく」
広告募集!!

「かがやく」は年2回発行し、広報いるまとともに全戸配布する生涯学習情報紙です。各種宣伝や募集など、広告を掲載してみませんか？

●お気軽にお問い合わせを！
担当：市教育委員会社会教育課
TEL 2964-1111(内4124)

◎編集後記◎

●今回ご紹介したサークルは、どれだけ問い合わせがくるか？とても楽しみです。たくさんある生涯学習を、一人でも多くの人に紹介したいです。(SK)

●見る側の環境や気持ちの変化で毎年違って見える桜の花。今年の桜はどんなかな？(TE)

●たくさんの市民の皆さんの中でキラキラ輝く方を見つけ出すのは、自身の受信機を磨いていないと大変なもの。今回もチャンネルが合い、良かった！(KH)

●「かがやく」新入生です。人生を楽しむ方々との出会いにワクワクしています。どうぞよろしくお願いします。(YY)

●この地球上には、数十億人の人々が生活しています。言葉も食べ物も違うけれど、お互いに争わず、仲良くできたならとても素晴らしいと思います。(HT)